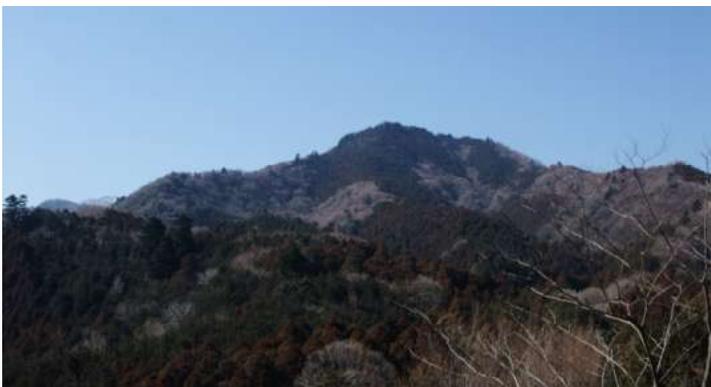


仙人通信 104 我が見える山 鐘ヶ岳(561m)

鐘ヶ岳は、大山から北東に延びる尾根に、もっこりと盛り上がった、600m足らずの山である。我家のベランダから、雪を頂いた丹沢を眺めている間に、ちょっと登ってみる気になった。厚木の七沢にある広沢寺温泉(玉翠桜)の前にある 県の駐車場から神山トンネル手前を尾根に登り、山頂へ向かい、七沢自然教室から一般道を駐車場まで戻るコースとした。駐車場からは大沢の瀬音を聞きながら杉林の中の林道を神山トンネルまで40分ほど進む。先日降った雪が山陰では残り凍っている。胸の茶色いやまカラが梢から迎えてくれた。トンネル横からは尾根に向い鎖やロープが張られた急登が始まる。凝灰岩質の岩には青緑色の小石である『セラドン石』が見られるが殆ど爪サイズ程の小さい物だ。又泥岩の中には貝の化石も見られる。10分ほどで尾根に出る。道標には山頂まで30分とある。嬉しい事に、尾根の北側の植林した檜・杉に対して、南側は殆どが水楢・サクラ等の落葉樹で太陽が登山道を照らす展望が利く道だ。アセビも赤い蕾が膨らみかけている。カラスとイカルが大きな声で鳴く以外は、何とも静かだ。杉木立を過ぎると、目的地の山頂である。視界がなく、誉められたものではないが、かつて上杉氏の山城があったとのことで、明治になり手に剣をもった不動明王が祭られている。ここから60mほど下がった所に浅間神社が祀られ、東側が切り開かれており、スカイツリーも眺められるとか。到着が10時近くとなりガスが出て、残念ながら遠望は利かない。400mmの望遠レンズでカメラを覗いて見ると、約18Km先のオレンジ屋根の我家が確認出来た(ニンマリ)。我家が望める1山としよう。海老名・座間・相模原・橋本・相模川・手前の鐘ヶ岳と展望は申し分ない。御存知の方も多いと思いますが、丹沢の地層の中で鐘ヶ岳は、大山亜層群の外にある煤ヶ谷亜層群に属す山並である。愛川町の半原～津久井湖～相模湖～大月～藤の木へ繋がる愛川 藤の木構造線(丹沢が本州に衝突した境界)に平行に小鮎川の煤ヶ谷～宮が瀬(落合)～石老山の西側位置する牧馬に向かい煤ヶ谷 牧馬構造線(フィリピンプレートと太平洋プレートの境)とが眺められるポイントでもある。神社からは石作りの急な階段を斜め歩きしていると、4人の若者が大きな角材を背負い、汗をかきながら揚げてくる。聞くと山の案内板を付ける工事だそうである。かつてはモノレールがあったのだが、取り払われたとの歎きの声だ。階段が終って緩やかになった地点から、砂岩・泥岩質の岩となる。殆どが丸い岩を同心円状に切り落とした玉葱状の石『オニオンストラクチャー』と言うらしい。丹沢が火山であったころの火山弾等が露出し、風化と熱膨張で表面が崩れ落ちて出来たものだそうである。大変もろく容易に崩れる。登山道15丁目から奥半谷林道に出て自然教室へと向う。林道の横の崖は殆どがこの『オニオンストラクチャー』であり、コンクリートで整備された林道は、正に『オニオンストラクチャー』の回廊である。イルカ・猿・豚・いやいや誰かさんに似た顔、そして先日自治会の研修のおり七沢温泉で食べた『しし鍋』のお肉にも見える(お腹空いた)。苦笑いしながらの30分であった。途中かつての石切り場 半谷 近くで、5頭もの鹿が現れたり、春を待つ三椏の蕾とも出会えた。自然教室からはアスファルトの道路となり駐車場に戻ると、隣で炭窯からもくもくと、昭和20年代を思わせる独特の香りを漂わせ、長閑な山里の風情に触れた約16000歩(3時間半)の山旅でした。(H24・2・21)

鐘ヶ岳全景



オニオンストラクチャー

